

10. 環境報告書の評価と編集後記

10.1 環境報告書の評価

■ 第三者有識者のコメント

山口大学「環境報告書2018」における本学の事業活動や学生・教職員の環境配慮活動の公表内容について、山口市環境部環境政策課長の杉本一平様よりご意見をいただきました。

山口市環境部環境政策課長 杉本一平

貴学では、環境省の「環境報告ガイドライン」に沿った環境報告書を毎年公表されています。毎年改善を続けてこれ、環境報告書に記載すべき要求事項は概ね記載があり、報告書としての要件は満たしている状況の中で、この度の環境報告書は、より読みやすい報告書とする意向が感じられるものになっています。

報告書の構成では、環境基本理念と方針が、環境マネジメントシステムの整備・充実の章に位置づけられるなど、環境マネジメントシステムの運用の意図が明確になりました。また、設定した環境目標と基本方針の関係性がわかりやすく整理されており、個々の環境目標についての実施状況が具体的に表記されています。

基本方針である事業活動における環境負荷の低減の取組では、環境影響物質の総量について、導入量、排出量に分類して調査、分析を行うことで、環境負荷の低減のための課題の把握につながっています。

環境報告書を読みやすいものとし、環境保全教育にも活用されることは、環境マネジメントシステムにおけるPDCAサイクルの効果的運用につながっていきます。

吉田キャンパス、白石キャンパスのある山口市は、「人と自然が共生し、みらいにつなげる持続可能なまちやまぐち」を環境目標として掲げ、市民、事業者等の皆様が、山口市の豊かな自然に触れる中でシビックプライドを醸成し、自ら環境について考え、行動する担い手となっていただけるよう取り組みを進めています。貴学が取り組んでおられる「環境モラルの醸成」はまさに山口市が目指す姿と重なるもので、素晴らしい活動と評価しています。

また、山口市は、平成30年3月、市長が国民運動「COOL CHOICE」への賛同を宣言し、温室効果ガス排出量の削減目標達成に向けたこの取り組みへの理解や実践を市民・事業者の皆様へ呼びかけています。貴学に関わる皆様には、組織の継続的な取り組みはもちろん、個々の暮らしの中で「賢い選択」を実践いただくことをお願いします。（図10-1）

本年の記録的な猛暑は、地球温暖化対策の1つである「適応策」への取り組みの重要性を認識する契機となりました。気温上昇による農作物への影響や、過去の観測を上回るような短時間強雨、台風の大型化などによる自然災害、熱中症搬送者数の増加といった健康への影響など、気候変動の影響は、私たちのくらしの様々なところに既に現れています。温室効果ガスの排出量を減らす努力などに加えて、これからの時代は、すでに起こりつつある気候変動の影響への「適応策」が重要になってまいります。

今後については、この環境報告書で示された、組織全体で目指しておられる環境保全の取り組みに加えて、こうした「適応策」の位置づけを明確にした上での環境貢献技術の創出など、研究機関としての貴学のさらなる取り組みと、それらの拡がりにも期待しています。

山口市長の「COOL CHOICE」賛同宣言の内容

「未来の子どもたちが安心して生活できるまち」を実現するため山口市は国民運動「COOL CHOICE」に賛同し、市域の地球温暖化対策を推進します。

地球温暖化は、今や世界共通の大きな問題です。

私達には、一人ひとりが、日常の活動の中でできることを実践し、未来に生きる子どもたちに安心して生活できる環境を残していく責任があります。

本市は地域の視点から地球温暖化対策の推進を図るため、国民運動「COOL CHOICE（賢い選択）」に賛同し、持続的な発展を可能とする低炭素社会の実現に取り組むことを宣言します。



図10-1 定例記者会見で国民運動「COOL CHOICE」への賛同を宣言する渡辺純忠山口市長（平成30年3月）

山口市URL

<http://www.city.yamaguchi.lg.jp/soshiki/48/39711.html>

4. 山口大学の環境目標と実施状況

「山口大学の環境目標」については、事業所全体として、組織として、構成員一人ひとりが自身の課題と解決方法であることを認識し全員参加で取り組みました。次のとおり環境目標と詳細な実施状況を報告します。

表4-1 山口大学の環境目標と実施状況

基本方針	分類	担当	具体的な取組	中期目標	2017年度 環境目標	実施状況	関連ページ
事業活動における環境負荷の低減	温室効果ガス排出抑制	全学	省エネ法に基づく啓発活動によるエネルギー削減の励行	2013～2017年度の5年間で原単位5%以上削減	エネルギー消費量を対前年度比、原単位1%以上の低減に努める	省エネ改修・省エネ機器への更新、節電実行計画の取り組み、エネルギー使用量管理の徹底などを実施しました。 中期目標 エネルギー消費量原単位 5年間で9.2%減 対前年度比0.4%増 電気需要平準化評価原単位 — 対前年度比0.3%増 温室効果ガス排出量原単位 5年間で12%減 対前年度比0.3%減	P11
			温室効果ガス排出量の削減		電気需要平準化評価を対前年度比、原単位1%以上の低減に努める		P11
			紙使用量の削減に努める		温室効果ガス排出量を対前年度比、原単位1%以上の低減に努める		P11
	グリーン購入の推進	全学 財務部 施設環境部	摘要調達物品の環境配慮に努める	グリーン調達比率100%	グリーン調達比率100%	グリーン調達比率100%を達成しました。	P13
森林保護	全学	紙使用量の削減に努める	紙使用の計画的削減などに努める	紙使用量の削減とリサイクルの推進	両面印刷やNアップ印刷（複数の原稿を1枚の紙に印刷）、電子情報による管理、用紙の再利用、PCによる電子会議、古紙リサイクルなどの取り組みを実施しました。 紙類購入量前年度比8.7%減 印刷出力枚数前年度比6.5%減	P13	
廃棄物の抑制	全学	廃棄物の再資源化に努める	廃棄物の減量化に努める	廃棄物の削減とリサイクルの推進	ゴミの分別収集の徹底、実験計画の検討及び見直し、化学物質使用量の削減、有機溶媒の再利用、家畜排泄物を堆肥としてリサイクルなどの取り組みを実施しました。 一般廃棄物量前年度比2.8%減 産業廃棄物量前年度比0.5%増 廃液処分量前年度比17%減	P14, 21	
環境貢献技術の創出	環境研究	学部等	小資源・省エネルギーに繋がる研究開発	地球環境にやさしい研究開発の推進	環境に関する研究の推進	省資源・省エネルギー及び再生可能エネルギー、地球環境保全などの研究等を促進しました。	P22～24
環境モラルの醸成	環境教育（環境基礎・環境教育カリキュラムの充実）	学生支援部 学部等	学生への環境教育の実施	学生に対する環境教育の徹底	実験排水の適正な処理の徹底 教育・研究等を通じて地球環境の負荷低減に努める	環境対策に関する教育、環境保全及び安全教育、実験排水や廃液処理について、授業やオリエンテーション等を活用して、教育の普及推進に取り組みました。	P20, 21 P25～31
		全学 施設環境部	職員への環境教育の実施	職員に対する環境教育の徹底	職員への省エネ意識の啓発	環境対策に関する情報の提供（ホームページ）、省エネ啓発通知（年20回程度）、ポスター掲載などの取り組みを実施しました。	P32
	学内環境美化	学部等 学生支援部 施設環境部	学内環境美化運動の促進	学内緑化及び学内一斉清掃の継続	学内緑化の推進及び学内一斉清掃の実施	キャンパスクリーン作戦（年2回）、構内除草作業・植木の剪定・芝張りなどの取り組みを実施しました。	P33～34
地域との協調・コミュニケーション	地域住民との触れ合い	企画戦略部 総務部 学部等	各種媒体を通じた環境情報の発信	関係者に対する環境情報の提供	各種媒体を通じた環境情報の発信	環境対策に関する情報の提供、公開講座やセミナーの開催、構内環境の広報活動などの取り組みを実施しました。	P35, 36
	職員・学生の自主活動による社会、環境貢献		環境啓発	地域貢献活動の推進	職員・学生の自主活動による環境貢献	地域クリーン作戦（年2回）、CO ₂ 削減県民運動の取り組みに参加しました。	P32, 34
法規制の遵守	化学物質の管理 水質汚濁防止	安全衛生対策室 学術研究部 学部等	化学薬品等の使用量の軽減	グリーンケミストリーの推進	化学薬品等の使用量の削減	実験計画の検討及び見直し、化学物質使用量の削減、有機溶媒の再利用などの取り組みを実施しました。 廃液処分量前年度比17%減	P20, 21 31
			化学物質取扱者への教育・訓練	排水基準の遵守	化学物質取扱者への教育・訓練の徹底	環境保全と安全教育、廃液処理教育などの取り組みを実施しました。	P21, 31
			化学物質及び排水・廃液の適正管理	化学物質の適正管理の徹底	化学物質及び排水・廃液の適正管理	実験・研究室の巡視（基本週1回）により適正管理の徹底をしました。	P7
	大気汚染防止	学部等	排出基準の遵守	排出基準の遵守	排出基準値以下の運転（ボイラー）	適正な運転及び維持管理を行い、排出基準値以下となりました。	P19
各種産業廃棄物の処理	学部等 財務部 施設環境部	適正な管理と処理	適正な管理と処理	適正な管理と処理	廃棄物マニフェストの適正な管理と処理を実施しました。	P14～16 P19～21	
環境マネジメントシステムの整備・充実	環境配慮の取り組みのための管理体制の整備	全学	環境マネジメントシステム構築の推進	環境マネジメントシステムの定着・充実	環境マネジメントシステムの定着	環境マネジメント体制の円滑な運用及び環境目標の履行、組織内への数値目標・実績等の周知徹底を実施しました。 環境マネジメント対策推進会議：年5回開催、環境マネジメント対策部会：年3回開催	P6

最新の「山口大学の環境目標」は、次の大学ホームページから確認できます。URL http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~fms-O1/kankyo/kankyo_index.html